

プラごみと向き合う新たなチャレンジ、続々登場



どう広げる? 「Reduce」の取り組み

環境配慮設計に取り組むメーカーのうち、株式会社横浜リテラは「サスティナブルパッケージ」の開発で、「脱プラ化」を推し進めています。例えば、スナック菓子業界初の紙製のスタンドパウチを開発しました。従来のプラスチック製から紙製に切り替えることで、プラスチック使用量を約43%削減しました。しかし、紙への転換では、湿気や光、油に弱い紙でポテトチップスをしっかり守ることが難しく、開発に約3年もの歳月を要したという苦労もあります。横浜リテラは、アルミを内側に貼り合わせるなど素材設計を工夫し、商品を守りながら環境負荷を減らすことによって、循環型の社会モデルを広げようとしています。

▶ ワークシート タスク 01

▼お菓子業界初 紙製のスタンドパウチ



▲写真提供: 株式会社横浜リテラ

インタビュー動画

株式会社横浜リテラ

星野 千晶 さん

▶ ここをクリック! または p.10 の一覧表を参照

利用者をどう巻き込む? 協働の仕組み

例えば株式会社カマンは、「Reuse」を通じて飲食店のプラスチック容器削減に取り組むサービス「Megloo」を展開しています。利用者は食後の容器を協力店舗や地域の回収ボックスに返却でき、回収された容器は洗浄のうえ再利用されます。これにより、使い捨てを前提としたテイクアウト容器を繰り返し活用し、プラスチックごみ削減につながっています。

Meglooの使い方



インタビュー動画

株式会社カマン

善積 真吾 さん

▶ ここをクリック! または p.10 の一覧表を参照

最大の特徴は、各容器に貼付されたRFID (ICタグ) です。これにより、誤ってゴミ箱に捨てられても所在が把握でき、回収率は驚異の98%超を実現しています。捨てるのが当たり前だったテイクアウト容器が、くり返し使える容器に置き換わることで、資源循環に関わっていることを実感できる仕組みになっています。

▶ ワークシート タスク 02

▼RFIDの付いたマグカップ容器



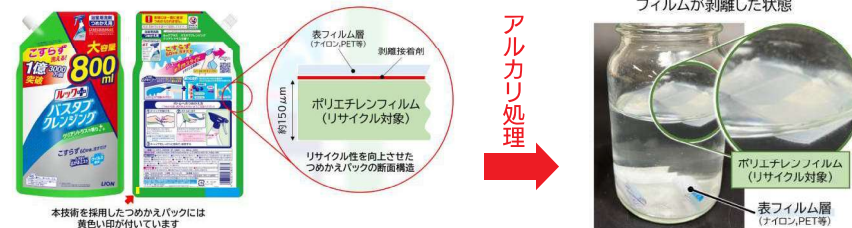
▲撮影協力: 株式会社カマン

技術革新で何ができる? 剥離技術

「剥離リサイクル技術」がリサイクル業界で注目されています。これは、従来はリサイクルが難しかった「軟包装 (フィルムパッケージ)」の再資源化を可能にする技術です。詰め替え容器などに多く用いられる軟包装は、複数のプラスチックフィルムに、印刷インキや接着剤などの素材を組み合わせ製造されています。そのため、以前は異なる素材を分離できず、再生できたとしめてごく一部の製品にしか利用できませんでした。しかし、剥離リサイクル技術によって、それぞれ分離・回収することが可能になり、再び軟包装として利用できるようになりました。さらに現在では、印刷インキや接着剤などを剥離しやすいように設計した剥離しやすいように設計した包装の開発も進んでいて、循環型社会の実現に向けて進化を続けています。

▶ ワークシート タスク 03-04

▼「剥離リサイクル技術」によってリサイクル性を向上



▲出典: artience株式会社, “東洋インキの剥離リサイクル技術がライオン株式会社のつめかえパックに採用”, ニュースリリース・お知らせ, <https://www.artiencegroup.com/ja/news/2024/24102101.html>, (2025-11).